

急回復するインバウンド需要 と関西経済

-関西経済白書2023より-

2023年11月30日(金)

アジア太平洋研究所

副主任研究員 野村 亮輔

1. APIRについて
2. 日本・関西経済の現況と予測
3. 急回復するインバウンド需要
4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果

1. APIRについて

2. 日本・関西経済の現況と予測

3. 急回復するインバウンド需要

4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果

APIR概要

一般財団法人 アジア太平洋研究所

- ・関西の経済シンクタンクとして関経連のコミットのもと2011年12月1日統合・設立
- ・会員企業/団体数 197（2023年6月末時点）

役割と機能

【アジア太平洋地域との向き合い】

- ◆ 研究活動を通じ、アジア太平洋地域と関西の課題を解決し、双方の持続的発展に寄与
- ◆ 関西を代表し、研究を通じた国際交流



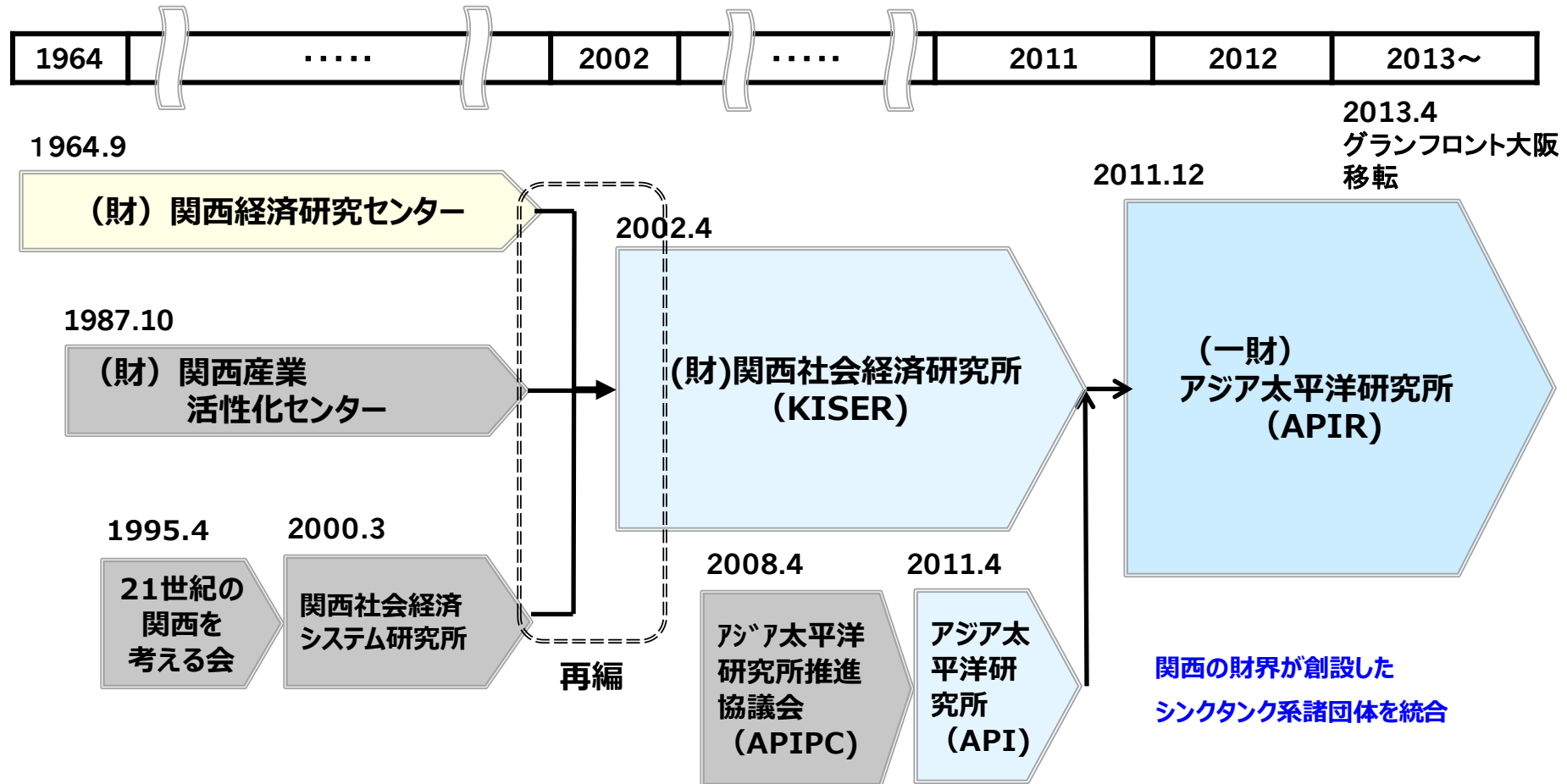
（ 基本財産 3.3億円
事業規模 約1.8億円/年 ）

【会員企業との関係構築 ～関西地域の活性化において】

- ◆ 地域の経済成長に向けた財界活動の一環としての会員企業によるサポートに基づく運営
- ◆ 会員企業に役立つ活動成果のフィードバック、情報提供
- ◆ 会員間交流の場づくり
- ◆ エリア人材の育成



APIRの沿革



1. APIRについて

組織図

(23年10月11日時点)



宮原 秀夫
所長



猪木 武徳
研究顧問



本多 佑三
研究統括



稲田 義久
研究統括



松林 洋一
上席研究員



後藤 健太
主席研究員



木村 福成
上席研究員

【所長】 宮原 秀夫 [大阪大学名誉教授、元大阪大学総長]

【副所長】 村田 正幸 [大阪大学教授]

【研究顧問】 猪木 武徳 [大阪大学名誉教授]

【研究統括】 本多 佑三 [大阪大学名誉教授]

稲田 義久 [甲南大学名誉教授] **RL**

【上席研究員】 松繁 寿和 [大阪大学名誉教授、高松大学教授] **RL**

松林 洋一 [神戸大学教授]

【主席研究員】 後藤 健太 [関西大学教授] **RL**

【数量経済分析センター長】(兼) 稲田 義久

【副主任研究員】 野村 亮輔

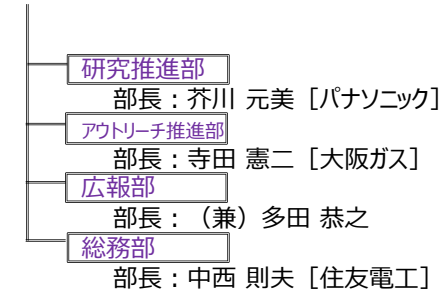
【研究員】 郭 秋微 (台湾)、盧 昭穎 (中国)

ヤニ・カラヴァシレヴ (ブルガリア/非常勤)

【インターン】 ルオン・アン・ユン (ベトナム)

【代表理事】 小浪 明 [住友電工]

【事務局長】 多田 恭之 [関西電力]



人員(常勤): 25名 (うち出向者12名)

外部研究員

【上席研究員】

有馬 純 [東京大学教授]

大竹 文雄 [大阪大学教授]

大野 泉 [政策研究大学院大学教授]

木村 福成 [慶應義塾大学教授・ERIAチーフエコノミスト] **RL**

下條 真司 [青森大学教授] **RL**

高林 喜久生 [大阪経済法科大学教授]

豊原 法彦 [関西学院大学教授]

藤原 幸則 [大阪経済法科大学教授]

古沢 昌之 [近畿大学教授]

守屋 貴司 [立命館大学教授]

家森 信善 [神戸大学教授]

【主席研究員】

梶谷 懐 [神戸大学教授]

後藤 孝夫 [中央大学教授]

関 和広 [甲南大学教授] **RL**

前田 正子 [甲南大学教授]

勇上 和史 [神戸大学教授]

(**RL**=23年度自主研究プロジェクトの
リサーチリーダー)

活動状況

ミッション：アジア太平洋地域が直面している諸問題に対して、課題解決型シンクタンクとして多様な知的貢献活動を展開し、日本とアジア太平洋地域の新たな活力創出、持続的な発展に寄与する

活動の3本柱

1. **自主研究プロジェクト**

2. **経済フォーカスト**（定例経済分析：月次・四半期）

3. **関西経済白書** 「アジア太平洋と関西」の発行

3つの軸

アジア
太平洋軸

日本・関西
経済軸

経済予測・
分析軸

成果発信

Event

シンポジウム
フォーラム
セミナー

Report

トレンドウォッチ
インバウンドレポート
ディスカッションペーパー

Press

記者発表、
取材対応

Web

ホームページ
メールマガジン

Magazine

APIR NOW ほか

今年度版の関西経済白書と特徴

★今年度の特徴

世界各国のコロナ禍で見えてきた世界経済の変化と挑戦を追う

Part I : アジア太平洋地域 **ポストコロナ時代の幕開け：変化と挑戦**

Part II : 関西地域の分析 **関西経済反転に向けての正念場**

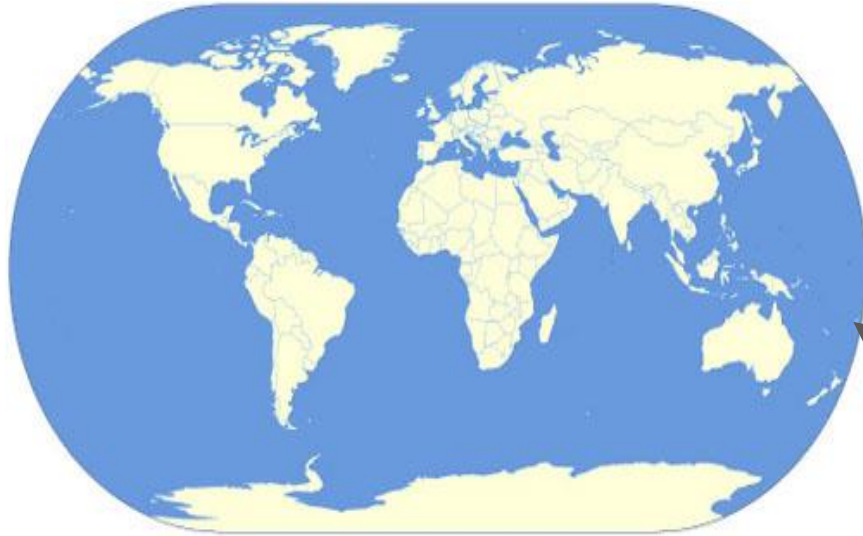
(昨年の白書と異なる点)

- ◆ 2022年はコロナ禍およびロシア・ウクライナ危機と相まって世界経済の混乱はさらに深刻化し歴史的転換期を迎えた。昨年の『関西経済白書2022』では、不安定化する世界経済の現状を詳しく分析。今年の『関西経済白書2023』では、高インフレ下の世界主要国の現状とアジアおよび関西地域の課題と展望について考察
- ◆ Part I では3 issues & 5 topics、Part II では4 issues & 10 topicsにまとめて報告

今年度版の関西経済白書と特徴

アジア太平洋地域

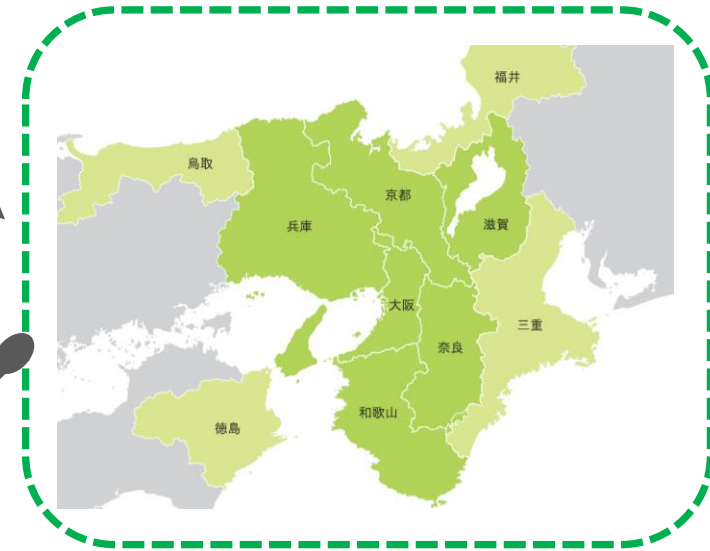
関西地域



Part I の分析

【ポストコロナ時代の幕開け：変化と挑戦】

1. 国際秩序の変容と世界経済
2. 米中経済の課題と対応
3. 日本企業の戦略と課題



Part II の分析

【関西経済反転に向けての正念場】

1. 物価と賃金の好循環メカニズムを目指して
2. 儲かる産業構造とは
3. インバウンドの回復と観光戦略
4. 拡張万博とDX

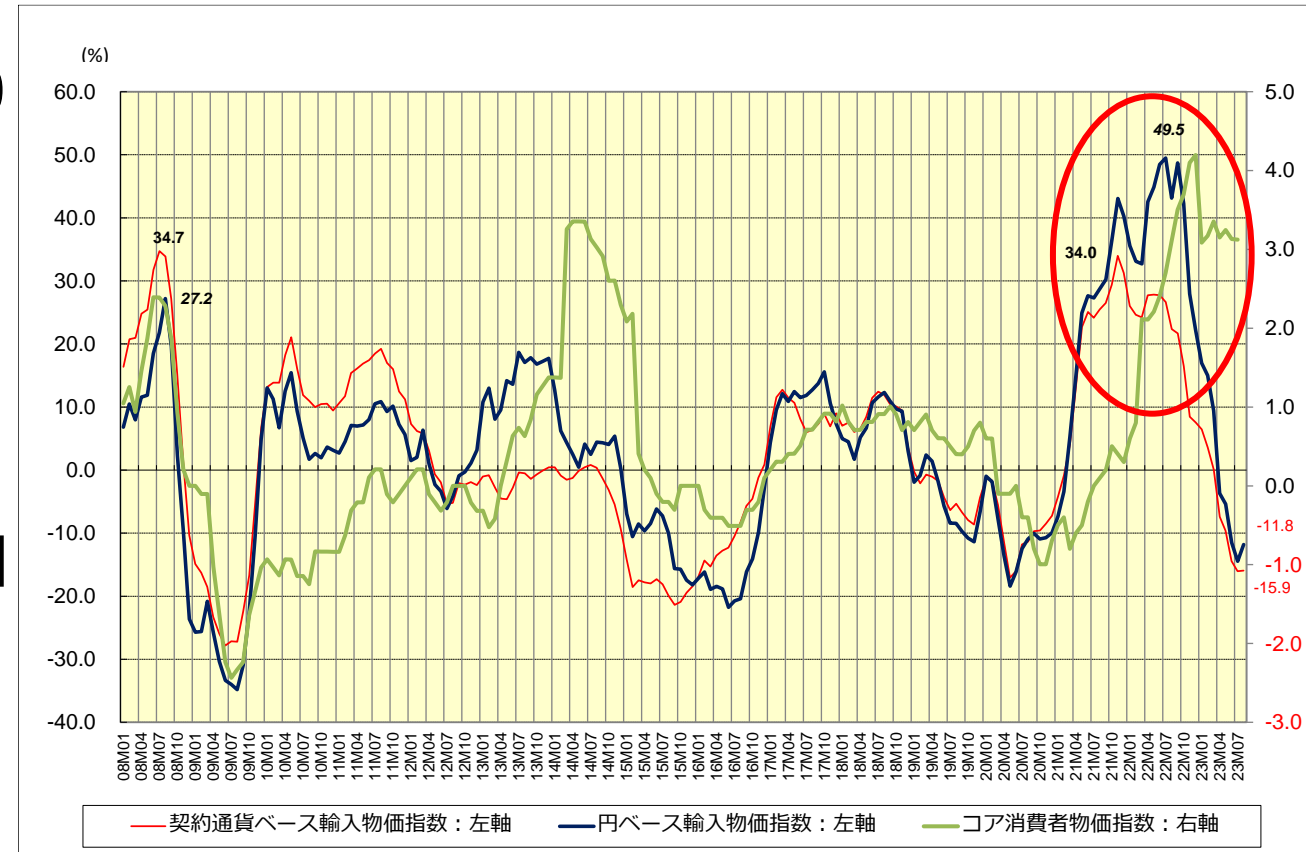
Part III EXPO 2025 Chronology · Tourism Chronology

1. APIRについて
- 2. 日本・関西経済の現況と予測**
3. 急回復するインバウンド需要
4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果

2022年は物価と賃金の好循環に注目が集まった歴史的な年

- ◆ コロナ禍後の回復過程の特徴：
- ◆ 2008年から10年12月(83.4円)：24ポイントの円高⇒21年1月から22年10月(147.0円)：43ポイント円安が進行
- ◆ 輸入物価インフレはタイムラグを伴い、国内企業物価に伝播し、消費者物価に転嫁
- ◆ 結果、2023年4-6月期の実質賃金は5四半期連続の前年比マイナス
- ◆ 22年は急速な所得環境の悪化ゆえに、物価と賃金の好循環に国民的な注目が集まった歴史的な年

図0-1 契約通貨ベース輸入物価指数、円ベース輸入物価指数、コア消費者物価指数：前年同月比 (%)

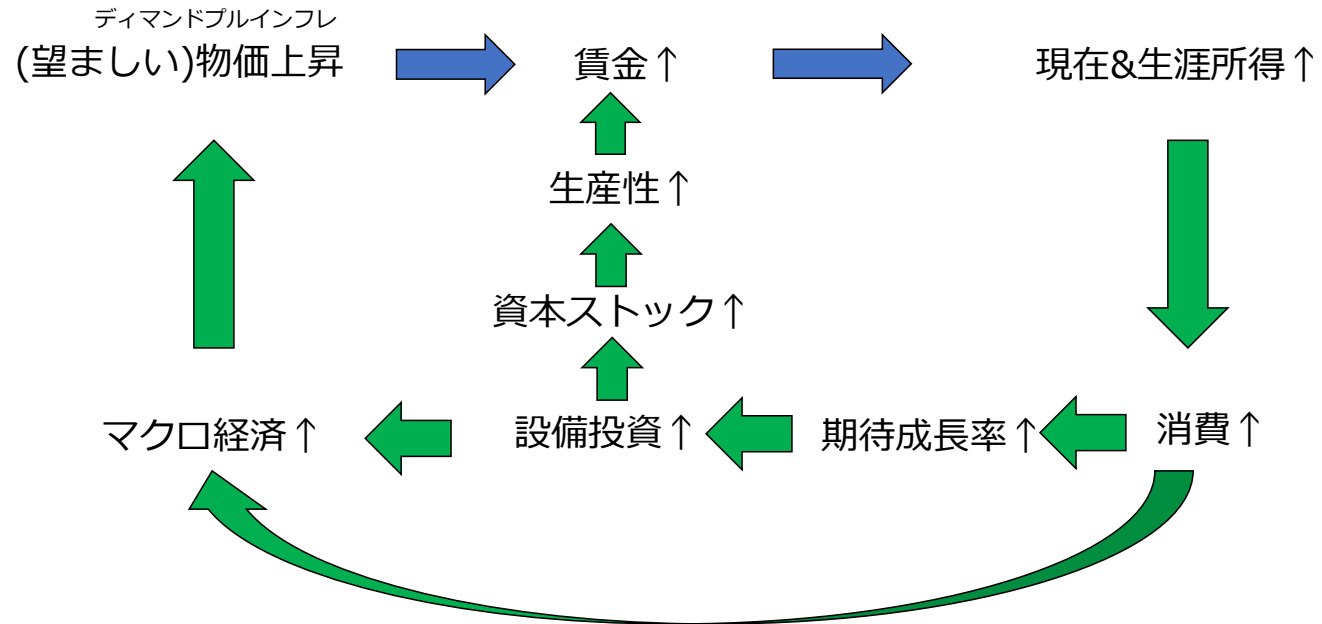


出所：日本銀行『国内企業物価指数』及び総務省『全国消費者物価指数』より筆者計算

物価と賃金の好循環メカニズム：関西経済白書2023より

- ◆ 物価と賃金の好循環についての理論的・実証的なフレーム
- ◆ ①賃金が持続的に上昇するためには、**経済全体の活況度を高め物価を上昇させていくことが基本**
- ◆ ②賃金上昇には**労働生産性の向上**が不可欠
- ◆ ③設備投資は経済全体の需要を増やすだけでなく、生産設備の増加を通じて生産性及び供給力を高める
- ◆ **物価と賃金の好循環とは、マクロ経済の需要サイドと供給サイドが相互にリンクしながら好影響を及ぼし合うメカニズム(図3-1-18)**

図3-1-18 物価と賃金の好循環のメカニズム



日本経済の現況と短期予測

(単位：2019年7-9月期=100)

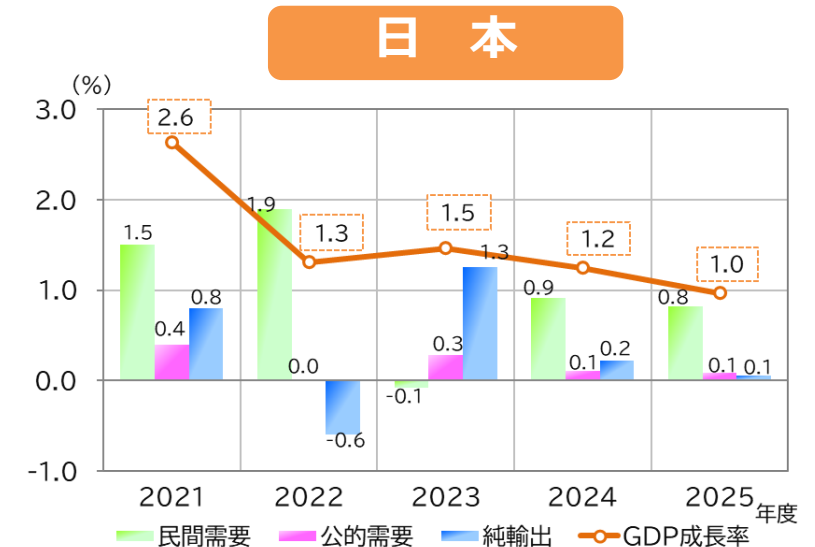
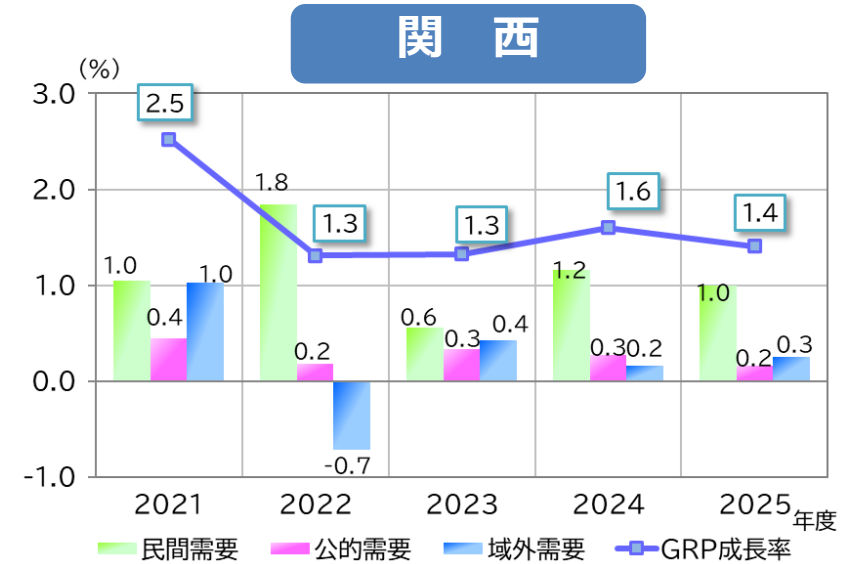
- ◆ 7-9月期はマイナス成長のため実質GDPは再びコロナ禍前のピークを0.4%下回った。ただし、物価上昇の影響もあり名目GDPは4四半期連続でピークを上回っている
- ◆ 足下、民間最終消費支出(-3.3%)、民間資本形成(-4.7%)の回復は依然遅れているが、インバウンドの急回復もありサービス輸出(+6.0%)はコロナ禍前のピークを3四半期連続で回復した
- ◆ 一方、財貨輸入(-0.9%)は内需の弱さを反映し、2四半期連続でピークを下回った

	国内総生産	財貨輸入	サービス 輸入	民間最終 消費支出	民間資本 形成	政府支出	財貨輸出	サービス 輸出	名目国内 総生産
19Q3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
19Q4	97.2	98.7	96.2	96.7	94.8	100.3	97.9	100.3	98.0
20Q1	97.6	93.9	94.7	97.3	95.1	100.3	95.6	88.7	98.7
20Q2	89.9	94.8	89.5	89.1	91.8	101.2	78.1	76.7	91.3
20Q3	95.0	87.1	84.8	94.0	88.8	103.1	88.9	73.3	96.2
20Q4	96.8	94.3	84.3	95.8	89.6	103.9	98.3	75.1	97.8
21Q1	96.6	96.3	85.4	94.1	92.4	103.8	100.8	79.1	97.7
21Q2	97.1	99.3	94.7	94.3	93.6	105.1	104.8	79.7	98.2
21Q3	96.8	98.2	90.8	93.3	93.6	105.5	103.9	80.6	97.7
21Q4	97.8	99.0	90.0	96.1	93.3	103.9	103.9	80.3	98.4
22Q1	97.2	103.0	92.4	95.0	95.6	103.7	106.4	78.3	98.5
22Q2	98.3	104.7	91.8	96.6	95.6	104.1	107.8	82.0	99.4
22Q3	98.2	106.6	107.8	96.8	97.5	104.1	109.3	86.9	98.7
22Q4	98.1	108.5	102.6	97.0	95.1	104.4	109.3	94.3	100.0
23Q1	99.0	104.3	108.0	97.6	98.2	104.8	102.9	100.1	102.2
23Q2	100.1	99.2	108.2	96.7	97.1	104.9	106.3	106.2	104.8
23Q3	99.6	99.1	113.6	96.7	95.3	105.0	107.1	106.0	104.8

出所：内閣府「四半期GDP速報 2023年7-9月期(1次速報値)」よりAPIR作成

実質GRP成長率の予測結果と項目別寄与度

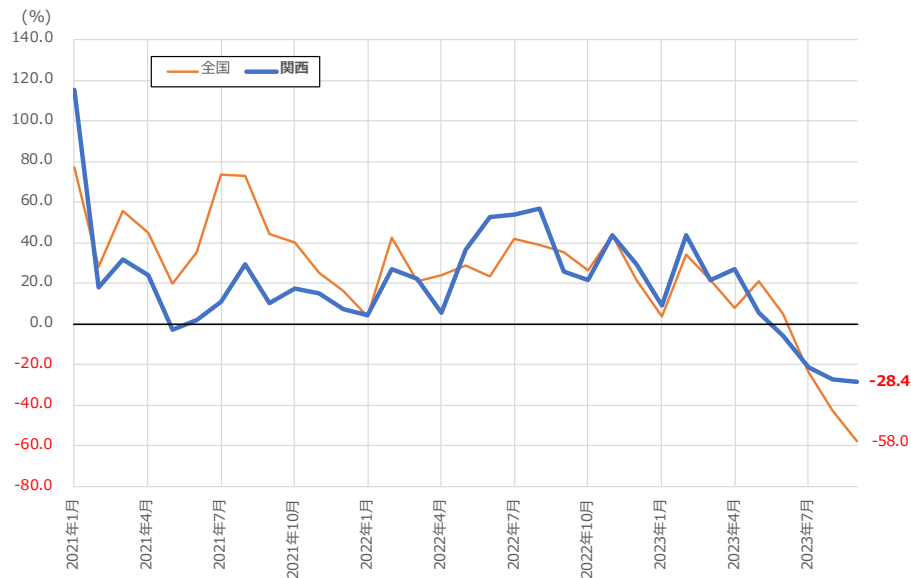
- ◆ 日本の実質GRP成長率を2023年度+1.5%、24年度+1.2%、25年度+1.0%と予測
- ◆ 純輸出は23年度+1.3%ポイント、24年度+0.2%ポイント、25年度+0.3%ポイント
- ◆ 関西の実質GRP成長率を23年度+1.3%、24年度+1.6%、25年度+1.4%と予測
- ◆ 域外需要は23年度+0.4%ポイント、24年度+0.2%ポイント、25年度+0.3%ポイントと成長に小幅貢献
- ◆ 関西では中国向け輸出のウェイトが大きく、良くも悪くも影響が大きい



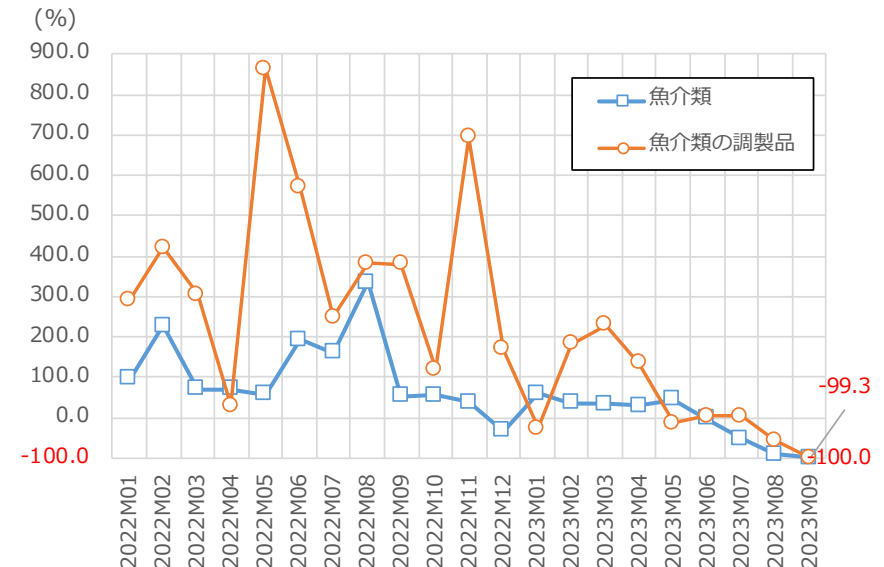
トピックス：対中食料品輸出の動向：関西

- ◆ 9月の対中輸出のうち、食料品伸び率の推移をみれば、全国は前年同月比-58.0%と、3カ月連続、関西は同-28.4%と、4カ月連続でそれぞれ大幅減少
- ◆ 関西における9月の「魚介類」及び「魚介類の調製品」の伸び率の推移をみれば、魚介類は前年同月比-99.3%、魚介類の調製品は同-100%と消失

【対中食料品輸出額の伸び率の推移：2021年1月～23年9月】



【「魚介類」及び「魚介類の調製品」の伸び率の推移：2022年1月～23年9月】



(出所) 大阪税関調査統計課『大阪税関貿易速報資料：近畿圏』および財務省「貿易貿易統計」より作成

1. APIRについて
2. 日本・関西経済の現況と予測
- 3. 急回復するインバウンド需要**
4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果

観光戦略の10年を振り返る：関西経済白書2023より

◆ **観光戦略10年の特徴を予算配分、大型ホテル建設の動向、中長期的な課題(SDGs、D&I)から振り返る。詳細は、Tourism Chronology**

観光10年史 表1及び表2からの抜粋

年	出来事	年	出来事
2014/2/1	リッツ・カールトン京都、鴨川二条に開業	2019/6/28	G20大阪サミット2019が開催
2014/6/17	観光立国推進会議が訪日外国人2,000万人への行動計画を策定	2019/11/27	阪急阪神が梅田に「ホテルレスバイア」開業
2014/12/27	「まち・ひと・しごと創生総合戦略」閣議決定	2019/12/12	「国連観光・文化京都会議2019」が京都市内で開催
2015/2/9	大阪市が夢洲にIR誘致の方針を決定	2020/7/22	「GO TOトラベル」開始
2015/6/12	国交相が「広域観光ルート」7ルートの計画を認定		マリオットが奈良市に最高級「JWマリオットH」開業
2015/10/27	大阪府議会が全国初の民泊条例を可決	2020/11/3	京都二条城近く最高級「ホテルザ三井」開業
2016/2/26	日本版DMO候補法人の第1弾として24団体が登録	2021/4/1	同一府県内の旅行が対象の「地域観光事業支援」が開始
2016/3/17	星野リゾート「星のや京都」改装開業	2021/3/16	仏フォションが京都に「フォションホテル京都」開業
2016/10/15	「フォーシーズンズ京都」東山区に開業	2021/3/30	アパグループが再建中物件を買収し、新大阪駅タワー開業
2017/6/9	住宅宿泊事業法（民泊法）が成立	2022/4/22	星野リゾートが新今宮駅前にホテル「OMO7」開業
2017/11/28	日本版DMOの第1弾として41団体が登録	2022/10/11	全国を対象とする「全国旅行支援」が開始
2017/6/9	ヒルトンが高級ホテル「コンラッド大阪」中之島に開業	2022/11/25	インバウンドが再開し、関空の10月国際線旅客数30万人
2018/7/20	IR実施法が参議院で可決、成立	2023/1/2	星野リゾートが譲渡物件運用した「OMO関西空港」を開業
2018/9/4	関空、台風21号被害で閉鎖	2023/7/1	「セントラグランドH」なんばパークスサウスに開業
2018/12/17	観光庁が18年の訪日外客数3,000万人突破の記念式典開催	2023/8/29	「紫翠ラグジュアリーコレクションホテル奈良」開業

観光庁予算を費目別にみれば：2014-23年度

- ◆ 観光庁予算の動態をみれば、
- ◆ ①海外へのPR、②訪日外客の受入環境整備、③地域のコンテンツづくり、④コロナ禍への対応、⑤インバウンド需要回復、といった5つの局面に沿った予算編成の特徴
- ◆ 足下23年度はインバウンド需要の回復を受け、再び「外国誘客」の予算が増加。また、「地域誘客」も増加しており、インバウンド需要回復に備えた観光資源の磨き上げに注力

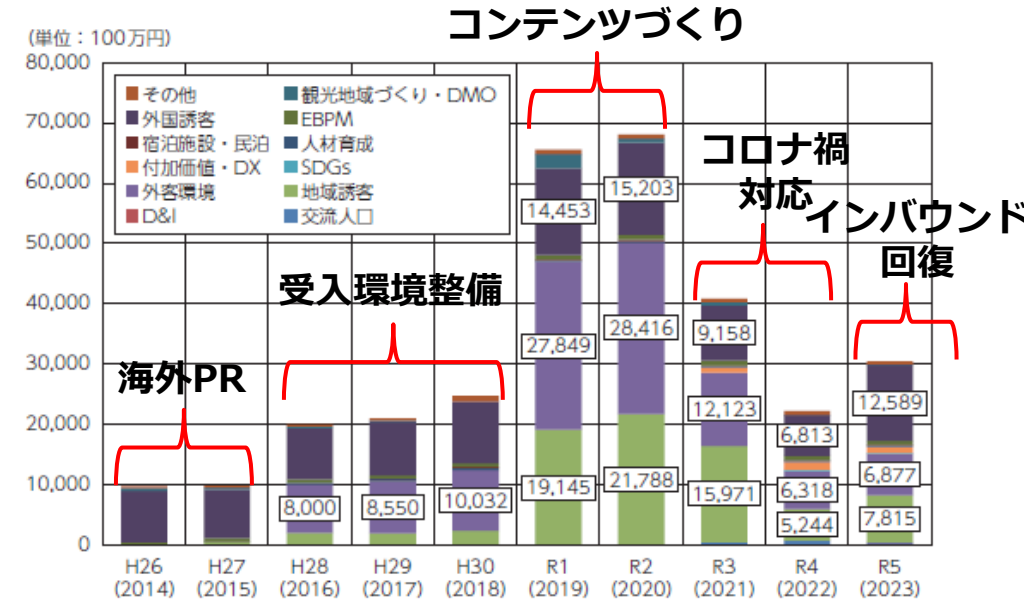


図5-3-2 費目別にみた観光庁予算額の推移

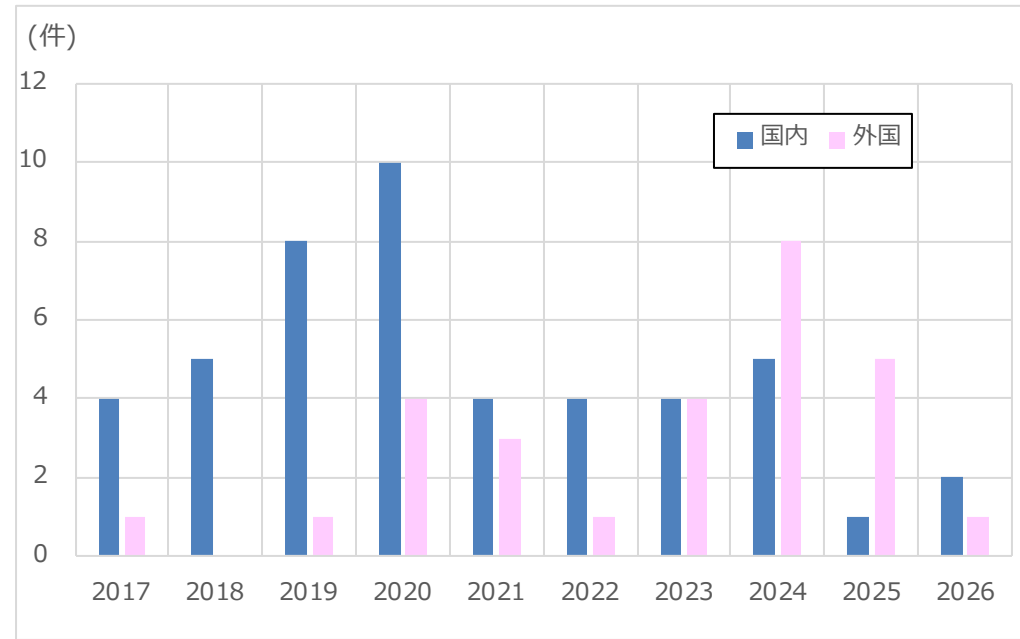
出所) 観光庁HPよりAPIR作成

APIR独自調査による大型ホテル建設の分析：ブランド別にみれば

- ◆ **大型ホテル開業のピークは20年。** 21～23年以降、コロナ禍によりペースは鈍化。**24年はコロナ禍からの回復を見据えて再び増加**
- ◆ **うち、国内ブランド**は、コロナ禍の影響で20年の10件が開業のピーク、21～23年以降は平均4件程度で推移
- ◆ **一方、外国ブランド**は、20年に4件開業、21～22年は一旦減少したが、足下23年は再び増加。先行きは24年に8件、25年に5件が開業予定

【大型ホテルの選定基準】

- ・ 期 間 2017～2026年に完成または開業
- ・ 範 囲 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 選定基準 【建設事業費(試算)】40億円程度以上、【延床面積】3,000坪程度以上

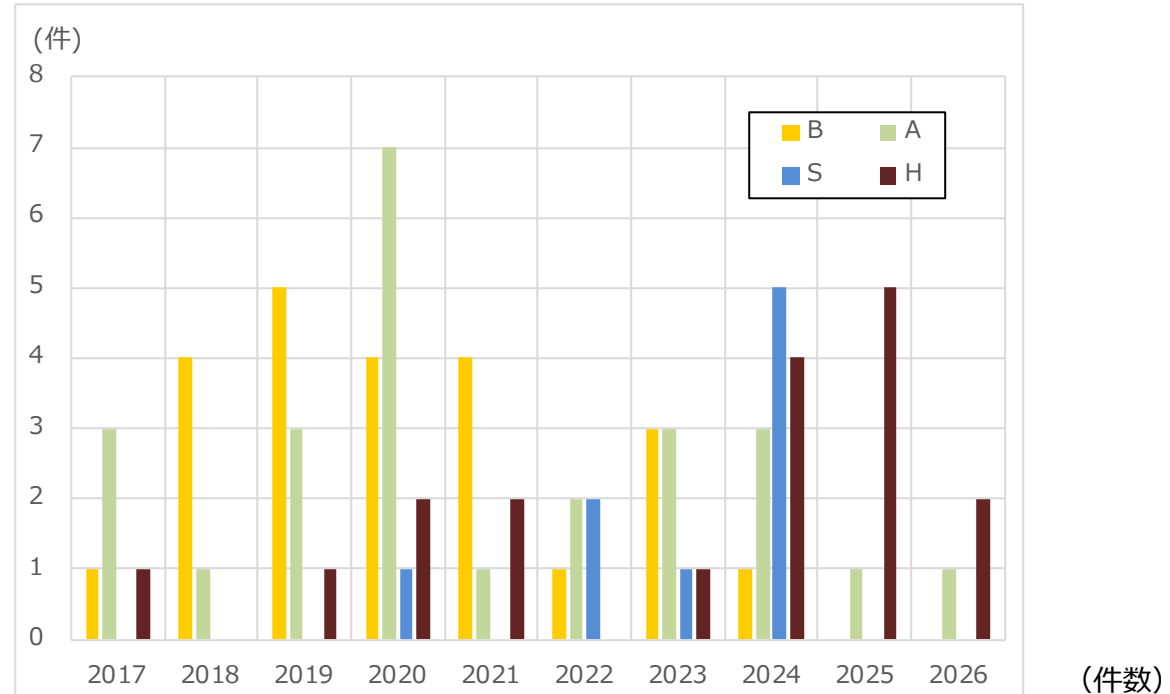


	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	計
国内	4	5	8	10	4	4	4	5	1	2	47
外国	1	0	1	4	3	1	4	8	5	1	28
計	5	5	9	14	7	5	8	13	6	3	75

出所：アジア太平洋研究所「APIR Trend Watch No.87」

APIR独自調査による大型ホテル建設の分析：グレード別にみれば

- ◆ 宿泊費のグレード別にみれば、2017年から20年までの計33件のうち、比較的リーズナブルな物件(B及びAクラス)は28件(約85%)
- ◆ 2023年以降は外国ブランドを中心に宿泊費の高い物件(S及びHクラス)が30件中、18件(60%)と増加



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	計
B	1	4	5	4	4	1	3	1			23
A	3	1	3	7	1	2	3	3	1	1	25
S				1		2	1	5			9
H	1		1	2	2		1	4	5	2	18
計	5	5	9	14	7	5	8	13	6	3	75

注：宿泊単価のグレードについては、B：1万円前後～、A：3万円前後～、S：5万円前後～、H：10万円前後～

1室当たりの建設事業費は外国ブランドが圧倒的に高い

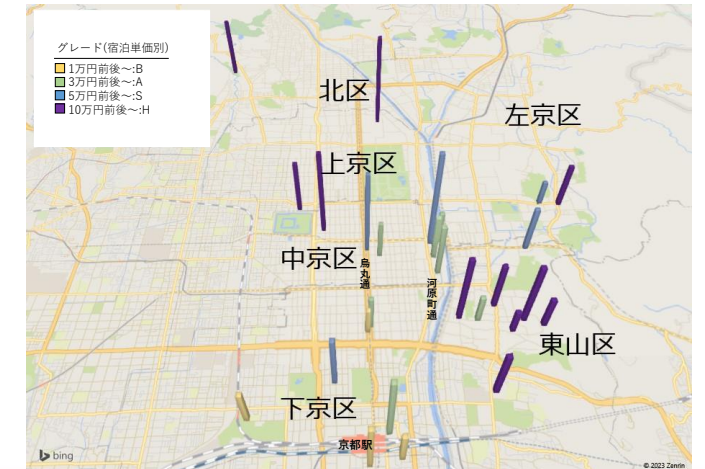
- ◆ 内外ブランド別に、**建設事業費**と**1室当たりの建設事業費**の記述統計を比較
- ◆ **建設事業費**をみると、国内と外国ブランドでは**大きな差は見られないが、1室当たりでは外国ブランドの方が圧倒的に高い**
- ◆ **地理的分布**をみれば、**御堂筋沿い(大阪市)と東山区(京都市)**に集中

試算建設事業費 (百万円)

	国内	外国
平均	10,052	11,507
標準誤差	947	1,078
中央値 (メジアン)	7,726	10,441
標準偏差	6,490	5,704
分散	42,118,138	32,531,823
範囲	29,178	20,337
最小	3,708	3,338
最大	32,886	23,674
合計	472,429	322,195
データの個数	47	28

1室当たり事業費 (百万円)

	国内	外国
平均	38	70
標準誤差	5	7
中央値 (メジアン)	26	67
標準偏差	32	37
分散	1,050	1,400
範囲	160	136
最小	8	17
最大	169	153
合計	1,785	1,951
データの個数	47	28



急回復するインバウンド需要

【訪日外客数の推移】

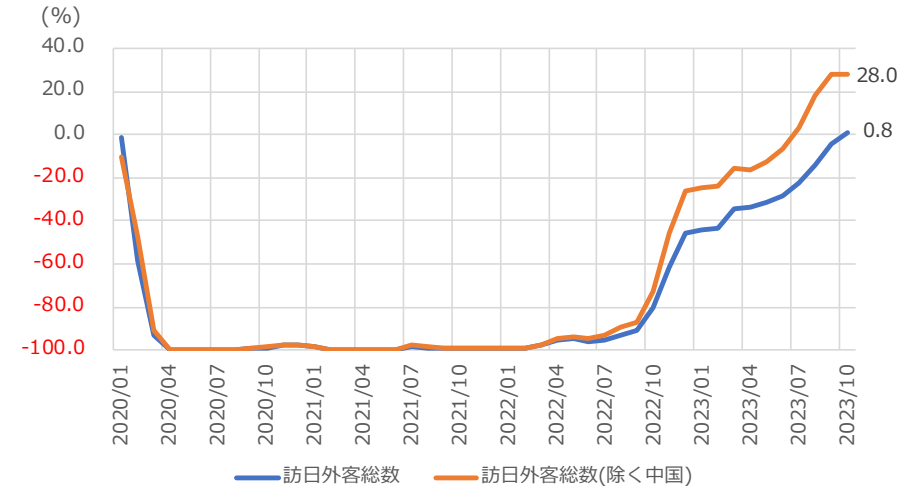
- ◆ 2023年7-9月期の訪日外客は666万1,894人で、コロナ禍前の8割強(19年同期比-14.4%)を回復
- ◆ 中国人客を除く総数は、23年7月にプラスに転じた*。

【訪日外国人旅行消費額の推移】

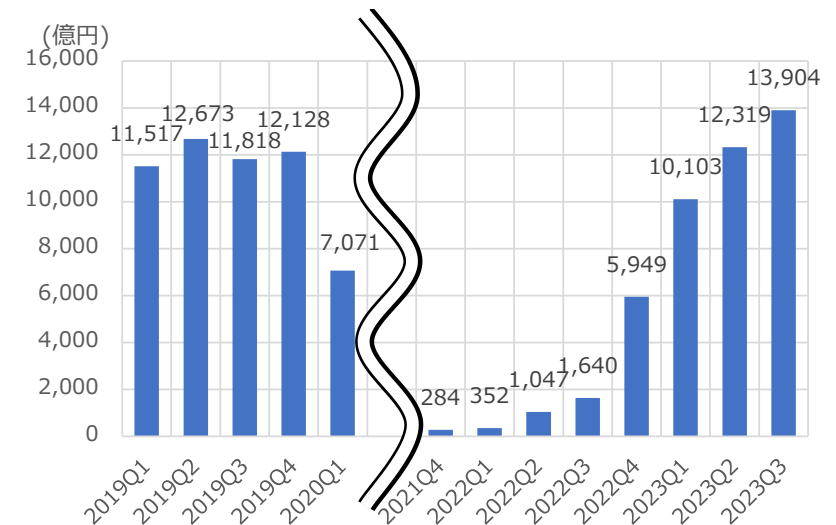
- ◆ 23年7-9月期の訪日外国人旅行消費額(速報、全目的ベース)は1兆3,904億円(1-9月期計：3兆6,326億円)。19年同期比+17.7%とコロナ禍前を上回った。消費単価は着実に上昇。この背景には円安や旅行者の嗜好の変化が影響

* 中国人客の回復についての詳細な分析はAPIR Trend Watch No.88を参照

【訪日外客数及び中国人客を除く総数伸び率推移：2019年同月比】

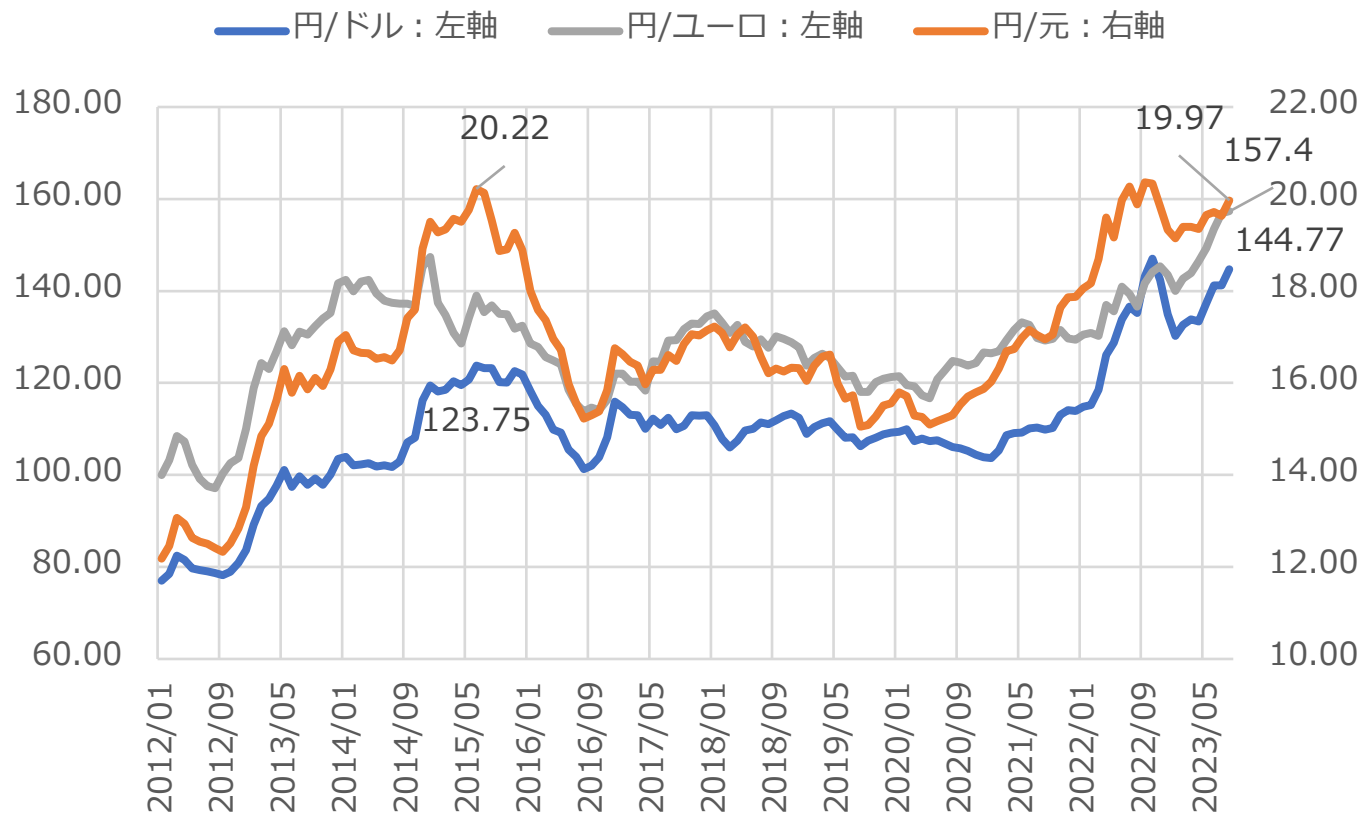


【訪日外国人旅行消費額の推移】



外国人の購買力：為替レート推移

◆ 円/元は爆買い時期に、円/ドル、円/ユーロは爆買い時期を超える



外国人消費単価の上昇と伸びる泊数

【訪日外客消費単価と平均泊数の比較】

- ◆ 2023年7-9月期(10/18発表)1人当たり旅行支出は2019年同期比+29.4%、三四半期連続でコロナ禍前を上回った(1-3月期：同+43.8%、4-6月期：同+34.7%)。引き続き2桁の伸びが続く
- ◆ 国・地域別にみれば、フランスが最も高い。次いで、英国、オーストラリア、米国、中国と続く
- ◆ 平均泊数をみれば、全体で0.8泊増加(1-3月期：+5.4泊、4-6月期：+2.0泊)。

【1人当たり旅行支出：2023年7-9月期：19年同期比】

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	英国	ドイツ	フランス	米国	オーストラリア
2019年7-9月期(円/人)	162,860	87,032	114,360	153,544	203,576	149,850	177,608	189,867	255,267	198,736	218,474
2023年7-9月期(円/人)	210,810	110,686	177,823	233,887	284,934	180,543	328,422	274,691	357,775	291,537	320,286
19年同期比(%)	+29.4	+27.2	+55.5	+52.3	+40.0	+20.5	+84.9	+44.7	+40.2	+46.7	+46.6

【平均泊数：2023年7-9月期：19年同期差】

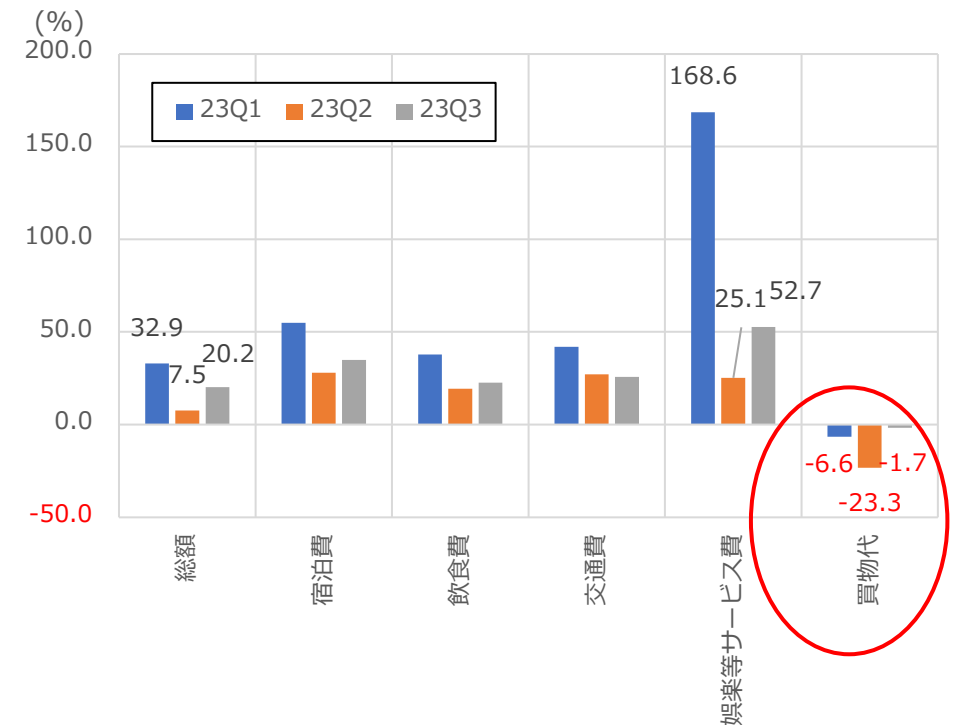
国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2019年7-9月期(泊)	10.4	7.6	6.7	6.7	7.7	20.0	9.1	16.8	19.7	25.6	36.3
2023年7-9月期(泊)	11.2	4.9	7.5	7.6	14.6	16.0	11.9	10.2	18.5	24.6	30.4
19年同期差(泊)	+0.8	-2.7	+0.8	+0.9	+6.9	-4.0	+2.8	-6.6	-1.2	-1.0	-5.9
国・地域	インド	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他
2019年7-9月期(泊)	21.7	12.7	12.4	24.5	12.7	16.1	24.6	14.1	12.1	11.9	18.5
2023年7-9月期(泊)	22.7	17.7	14.6	20.4	11.8	16.2	-	12.8	13.2	13.4	23.3
19年同期差(泊)	+1.0	+5.0	+2.2	-4.1	-0.9	+0.1	-	-1.3	+1.1	+1.5	+4.8

外国人消費単価を1人1泊当たりで見れば

【訪日外客1人1泊当たり消費単価の比較】

- ◆ 2023年7-9月期の1人1泊当たり消費単価をみれば、19年同期比+20.2%増加。23年に入り、増加傾向を維持
- ◆ 費目別では、宿泊費、飲食費、交通費、娯楽等サービス費がいずれも増加。一方、買物代は減少。コロナ禍以降、モノ消費からコト消費へと訪日外客の嗜好の変化が確認できる

【1人1泊当たり消費単価伸び率：2019年比】



出所：観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成

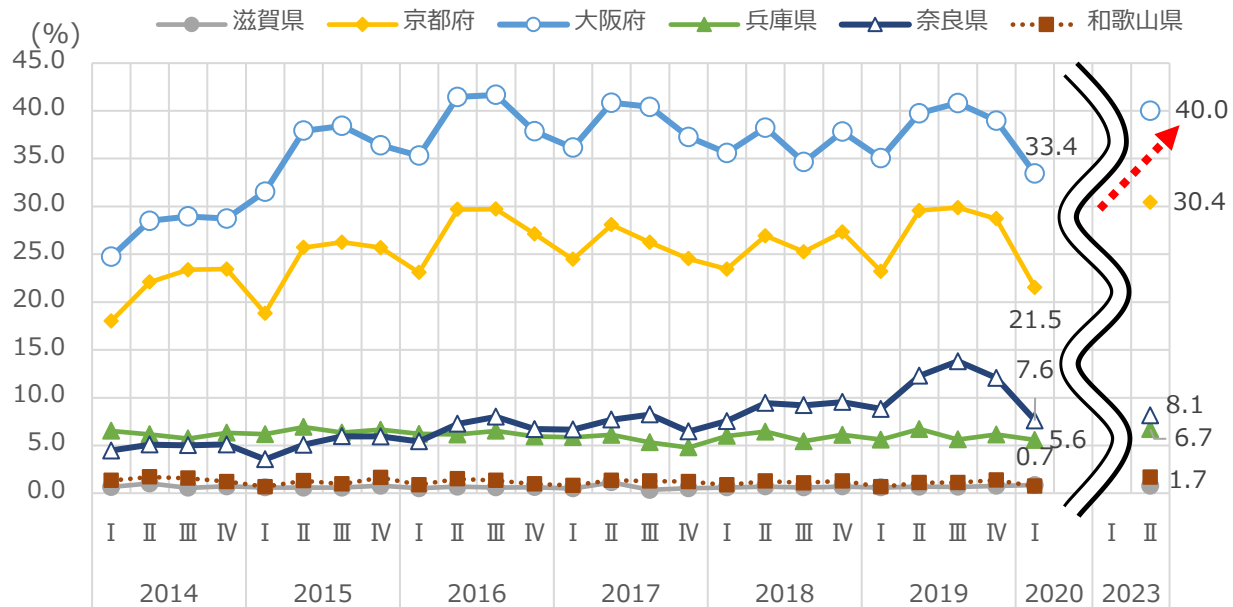
関西の訪問率と消費単価をみれば

【訪日外客の訪問率：関西】

- ◆ 今回3年ぶりに新たに発表(9/29)された2023年4-6月期の訪問率をみれば、大阪府(40.0%)、京都府(30.4%)、奈良県(8.1%)や兵庫県(6.7%)が前回から上昇

【訪日外客1人当たり消費単価の比較：関西】

- ◆ 費目別消費単価をみれば、関西においても買物代の減少が確認できる。コト消費拡大の兆し



【費目別訪日外国人消費単価：関西：2019年比】

期間	地域	消費単価	費目別 (7区分)					
			宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他
2019年4-6月期 (万円/人)	滋賀県	3.4	1.0	0.9	0.1	0.0	0.5	0.0
	京都府	3.3	1.1	0.8	0.1	0.1	0.7	0.0
	大阪府	7.1	1.2	1.2	0.1	0.2	3.5	0.0
	兵庫県	2.6	0.7	0.7	0.0	0.0	0.6	0.0
	奈良県	0.7	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.0
	和歌山県	3.9	1.5	0.7	0.0	0.1	0.5	0.0
	2府4県	3.5	0.9	0.8	0.1	0.1	1.0	0.0
2023年4-6月期 (万円/人)	滋賀県	4.3	1.5	1.3	0.1	0.1	0.2	0.0
	京都府	5.3	2.1	1.3	0.2	0.2	0.9	0.0
	大阪府	9.1	2.6	2.1	0.3	0.5	3.0	0.0
	兵庫県	3.5	1.1	1.0	0.0	0.3	0.6	0.0
	奈良県	0.9	0.2	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0
	和歌山県	3.3	1.3	0.7	0.1	0.0	0.6	0.0
	2府4県	4.4	1.5	1.1	0.1	0.2	0.9	0.0
19年同期比 (%)	滋賀県	27.4	46.3	47.2	-9.8	267.4	-58.5	-
	京都府	60.9	98.6	63.3	141.7	50.0	21.6	-
	大阪府	27.1	110.0	78.1	101.5	130.9	-14.0	-
	兵庫県	37.1	65.8	34.1	-16.3	694.0	-10.2	-
	奈良県	15.8	62.0	87.1	122.6	32.6	-26.3	-
	和歌山県	-15.5	-13.4	-3.3	14.0	-74.7	15.6	-
	2府4県	25.4	56.9	49.4	65.9	112.3	-10.5	-

注：消費単価にはパッケージ参加費が含まれる

1. APIRについて
2. 日本・関西経済の現況と予測
3. 急回復するインバウンド需要
- 4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果**

拡張万博の経済効果update

- ◆ **関西地域間産業連関表**を用いて、**大阪・関西万博の経済効果**を再試算
- ◆ **基準ケース**(夢洲会場に限定)に加え、「**拡張万博**」*により、**宿泊者の泊数が増加するケース1**と、**日帰り旅行者が20%増加するケース2**を検討。また国内客及び海外客の旅行1日当たりの支出額(単価)を最新データにupdate

*「**拡張万博**」とは、万博の**テーマ・時間軸・空間軸**の概念を**拡張**し、関西全体を仮想的なパビリオンに見立て、万博本体では実施しにくい経済活動を展開する取り組み

最終需要の想定：投資的支出

◆変更を迫られる大阪・関西万博の投資支出額

大阪・関西万博に伴う投資支出額等

1-1. 会場建設費（主催者）

(億円)

基盤整備（土木造成、舗装、修景工事等）	130
基盤設備整備（電気、給排水工事等）	285
駐車場、エントランス	171
パビリオン施設、サービス施設	1,103
会場内演出	50
その他（調査設計費、事務費）	108
合計	1,847

2-1. 運営費（主催者）

200億円前後増加

企画事業・輸送事業等	565
会場管理・管理人件費等	146
広告・宣伝等	58
計画・事業調整等	39
合計	809

3. 関連基盤整備

鉄道整備等（地下鉄中央線延伸および輸送力増強等）	610
道路改良等（此花大橋・夢舞大橋拡幅等）	250
南エリア埋立の追加工事費用	89
その他	179
合計	1,128

⇒500億円程度に増加し、2,350億円に

関連基盤計 1,128

1-2. 会場建設費（出展者）

パビリオン施設、サービス施設	495
会場内演出	49
その他（調査設計費、事務費）	106
合計	650

2-2. 運営費（出展者）

会場管理・管理人件費等	876
広告・宣伝等	350
計画・事業調整等	234
合計	1,460

建設費計 2,497

運営費計 2,269

合計 5,894

最終需要の想定：消費的支出

- ◆ **来場者の消費支出：来場者数×1人当たりの消費単価**
- ◆ **来場者数の想定：国内2,470万人、うち関西から約1,560万人、関西以外から約910万人(1泊：大阪府)、海外は約350万人(3泊：大阪府含む)と計2,820万人**
- ◆ **拡張万博の想定：ケース1では国内宿泊客の泊数は1泊2日から2泊3日、海外客は3泊4日から5泊6日に増加。ケース2ではケース1に加えて、国内日帰り客が更に20%増加し、大阪以外の当該地域を訪問**

来場者による消費支出(単位：億円)

基準ケース

	国内 日帰り客	国内 宿泊客	海外	計
交通費	1,196	738	198	2,132
宿泊費	0	838	562	1,400
飲食費	540	404	412	1,356
買物代	832	357	633	1,822
娯楽サービス	777	303	76	1,155
計	3,344	2,640	1,881	7,866

拡張万博ケース1(宿泊増)

	国内 日帰り客	国内 宿泊客	海外	計
交通費	1,196	1,107	297	2,600
宿泊費	0	1,676	937	2,613
飲食費	540	606	619	1,765
買物代	832	357	633	1,822
娯楽サービス	777	454	114	1,345
計	3,344	4,201	2,599	10,144

拡張万博ケース2(宿泊増+日帰り客増)

	国内 日帰り客	国内 宿泊客	海外	計
交通費	1,435	1,107	297	2,839
宿泊費	0	1,676	937	2,613
飲食費	648	606	619	1,873
買物代	832	357	633	1,822
娯楽サービス	932	454	114	1,500
計	3,847	4,201	2,599	10,646

拡張万博の経済効果

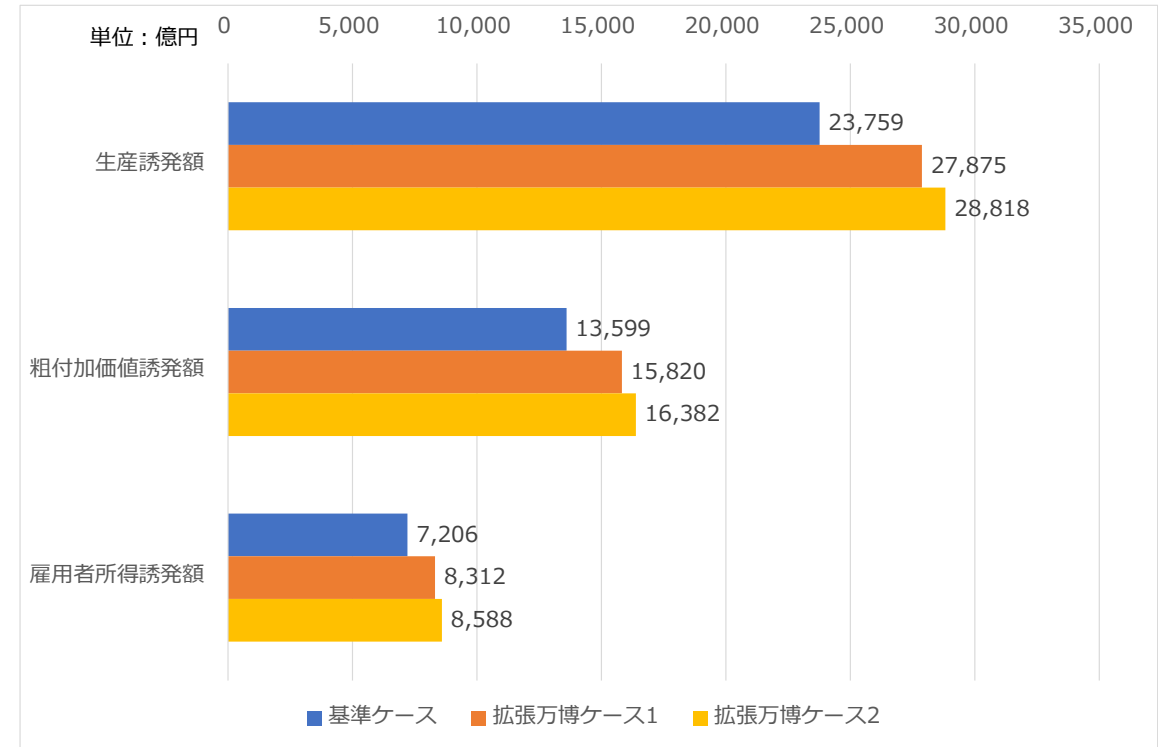
◆以上の想定を基に**拡張万博の経済効果**を推計

◆「基準ケース」と「拡張万博ケース1と2」の経済効果を比較

◆生産誘発額は、

- ① 基準ケース：2兆3,759億円
- ② 拡張万博ケース1：2兆7,875億円
- ③ 拡張万博ケース2：2兆8,818億円

◆**拡張万博の効果**を考慮した場合、**基準ケース**より約4千～5千億円程度**(17～21%)の上振れ**



	基準ケース	拡張万博ケース1	拡張万博ケース2	上振れ：ケース1	上振れ：ケース2
単位	億円	億円	億円	%	%
生産誘発額	23,759	27,875	28,818	17.3	21.3
粗付加価値誘発額	13,599	15,820	16,382	16.3	20.5
雇用者所得誘発額	7,206	8,312	8,588	15.3	19.2

拡張万博の経済効果：府県別波及効果

- ◆大阪府の経済効果：基準ケースは74.5%、拡張万博ケース1は64.3%、ケース2は62.4%。延泊(ケース1)と日帰り客の増加(ケース2)により、各府県への経済効果がさらに高まる
- ◆関西全体のパビリオン化(拡張万博)は経済効果が地域により均霑するため、決定的に重要

	基準ケース	拡張万博ケース1	拡張万博ケース2	拡張万博 ケース1-基準	拡張万博 ケース2-基準	拡張万博 ケース2-ケース1	基準ケース シェア	拡張万博ケース1 シェア	拡張万博ケース2 シェア
福井	70	251	288	181	218	37	0.3	0.9	1.0
三重	313	664	795	351	482	131	1.3	2.4	2.8
滋賀	183	399	469	216	286	70	0.8	1.4	1.6
京都	223	1,618	1,779	1,395	1,556	161	0.9	5.8	6.2
大阪	17,707	17,927	17,974	220	267	46	74.5	64.3	62.4
兵庫	684	1,318	1,532	634	848	214	2.9	4.7	5.3
奈良	97	169	216	72	119	47	0.4	0.6	0.8
和歌山	177	343	383	166	206	40	0.7	1.2	1.3
鳥取	28	151	183	123	155	32	0.1	0.5	0.6
徳島	75	182	205	107	130	23	0.3	0.7	0.7
その他地域(関西以外)	4,201	4,854	4,994	652	792	140	17.7	17.4	17.3
総計	23,759	27,875	28,818	4,116	5,059	943	100.0	100.0	100.0

関西観光の周遊化・広域化・高付加価値化に向けた取り組み

- ◆ 広域観光促進による経済効果
- ◆ 関西観光本部の取組：訪日外客を対象とする広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」を作成
- ◆ 広域観光ルートのうち、事例として山陰海岸エリアでのモデルコースを取り上げ(表6-3-4)、訪日外客の高付加価値化型の旅行需要が実現した際の経済効果を試算



表6-3-4 「THE EXCITING KANSAI」での山陰海岸エリア周遊ツアーの概要

ツアー名：Kinosaki～Tango Peninsula～Amanohashidate 3 days / 2 nights
料金：128,000円/人
ルート：関空→城崎温泉→天橋立→関空
1日目：関西空港到着後、レンタカーを借りて出発 【おすすめモデルコース】 出石そばの昼食と出石城下町を散策（辰鼓楼時計台、永楽館、匠の工芸品） 【おすすめオプション】 （出石エリア）そば打ち体験と昼食（所要時間約1時間） （豊岡エリア）豊岡KABAN職人街でお買い物 【宿泊施設】 西村屋ホテル招月庭または同等クラス ※夕食・朝食付
2日目：宿泊施設で朝食をとり、チェックアウト。セルフツアー後、天橋立地区の宿泊施設へ 【おすすめモデルコース】 城崎温泉ロープウェイで末代山温泉寺と展望台へ 和久傳森工芸館にて昼食 ちりめん街道・旧尾藤家住宅見学 【おすすめオプション】 （城崎エリア）城崎わら細工体験（所要時間約1時間） （京丹後エリア）本格的な縮緬着物の着付け&ウォーキング体験（所要時間約4時間） 縮緬コースター作り・手織り体験（所要時間約1時間） 【宿泊施設】 「天橋立離宮 星音」または同等クラス（夕食・朝食付き）
3日目：ホテルで朝食・チェックアウト。丹後半島をセルフドライブツアー、関空に帰着 【おすすめモデルコース】 伊根舟屋周辺散策 “舟屋レストラン”または“わだつみ”での海鮮料理ランチ 天橋立（元伊勢 籠神社・笠松公園） 【おすすめオプション】 （伊根エリア）舟屋ガイドと行く伊根体験（グループツアー約1時間） 伊根e-bike/電動アシスト自転車レンタル（所要時間約30分） 海上タクシーによる伊根舟屋周辺観光（所要時間約30分） 伊根湾観光船（所要時間約30分）

出所) 関西観光本部 「THE EXCITING KANSAI」 HPより作成

関西観光の周遊化・広域化・高付加価値化に向けた取り組み

- ◆ベースケース(従来型の旅行ツアー)と高付加価値ケース(高付加価値ツアー)の違い(表6-3-5)
- ◆**宿泊費**：ベースケースでは比較的安価な宿泊費だが、高付加価値ケースでは**ラグジュアリーな施設での宿泊**を想定
- ◆**買物代**：高付加価値ケースではツアーの行程に基づき、兵庫県で**豊岡カバン**、京都府で**伝統工芸品**の購入を想定
- ◆以上の単価を豊岡市の外国人延べ宿泊者数(2019年)に乘じ、APIR地域間産業連関表を用いて**高付加価値ツアーの経済効果を計測**

表6-3-5

各ケースでの1人当たり費用の比較

(単位：円/人)	ベースケース		高付加価値ケース		
	兵庫県	京都府	兵庫県	京都府	大阪府
宿泊費	7,600	10,531	45,000	60,000	0
飲食費	8,412	8,598	1,200	6,030	0
交通費	545	778	935	1,953	8,599
娯楽サービス費	1,630	1,319	1,200	3,200	0
買物代	7,445	7,593	20,000	10,000	0
その他	4,261	4,840	1,000	3,500	0

出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」及び関西観光本部「THE EXCITING KANSAI」プログラム等より筆者作成

関西観光の周遊化・広域化・高付加価値化に向けた取り組み

- ◆生産誘発額、粗付加価値誘発額、雇用者所得誘発額をみれば(図6-3-5)、
- ◆いずれも高付加価値ケースの効果はベースケースの**2.5倍程度**
- ◆地域別にみれば、両ケースともに全体の効果のうち**京都府に約40%、兵庫県に約35%**
- ◆高付加価値ケースでは、京都府のシェアが上昇している一方、関西以外のシェアが減少
- ◆地域の観光資源を有効活用したツアーを実施することで、多くの**経済効果が地域内に留まる**(表6-3-6)

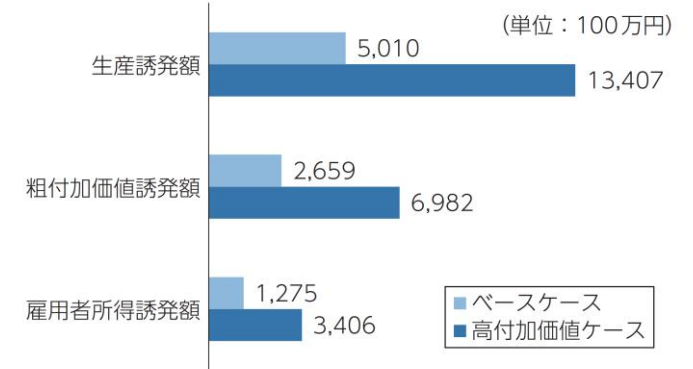


図6-3-5 各ケースの経済効果の比較

出所) 筆者作成

表6-3-6 地域別にみた生産誘発効果

	ベースケース		高付加価値ケース		両ケースの差 (100万円)
	生産誘発額 (100万円)	地域別 シェア	生産誘発額 (100万円)	地域別 シェア	
京都府	2,011	40.1%	5,523	41.2%	3,512
兵庫県	1,734	34.6%	4,595	34.3%	2,861
大阪府	273	5.5%	768	5.7%	495
その他関西	152	3.0%	414	3.1%	262
関西以外	841	16.8%	2,108	15.7%	1,267
合計	5,010	100.0%	13,407	100.0%	8,397

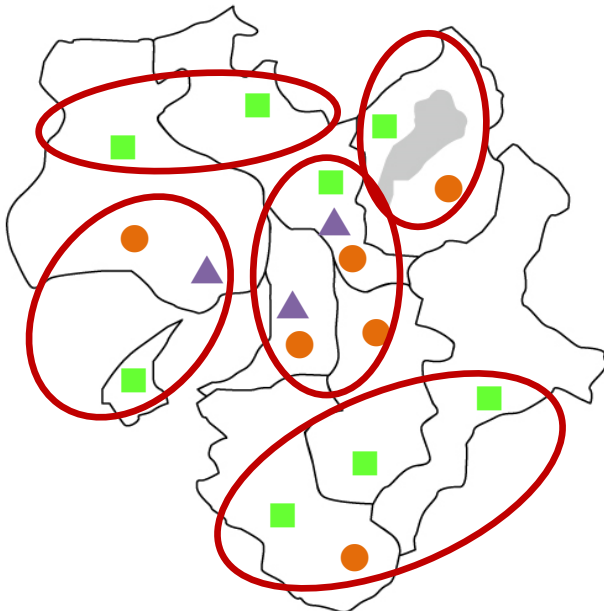
注) その他関西には、福井県・三重県・滋賀県・奈良県・和歌山県・鳥取県・徳島県が含まれる。関西以外は、国内の関西以外の地域を指す。
出所) 筆者作成

4. 拡張万博と広域観光促進による経済効果 進行中のAPIRのアンケート： ツーリスト属性の違いによる関西観光地の“魅力度”分析

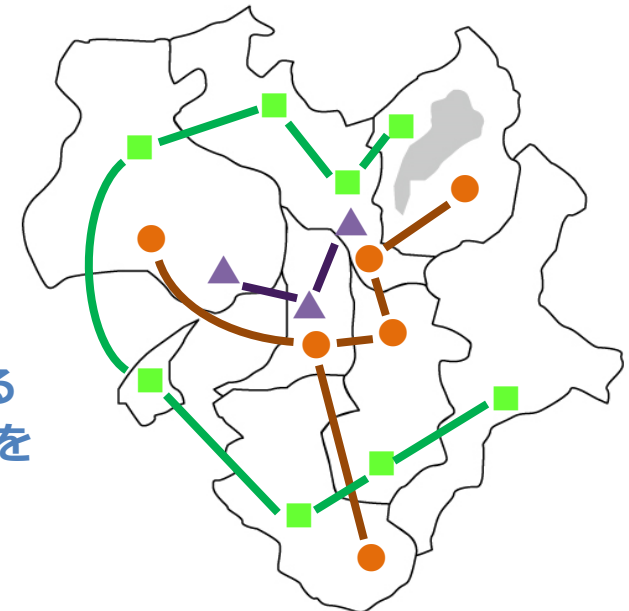
観光客の属性に基づいて、

- ① 関西でより長い滞在(もう1都市、もう1泊)を促すための実証分析を行う予定
関心度の高い観光地提示による、+αの経済効果を示す予定
- ② 『関西広域周遊プラン』の経済効果について検証する
関西観光本部が示す「周遊プラン」に参考に、APIRのアンケート調査に基づいて分析を行う予定

地理的な お勧め周遊プラン



観光客属性に基づく お勧め周遊プラン



インターネット上の様々な分野に適用される
『顧客属性に基づくレコメンド分析技術』を
リアルな広域観光プランの評価に応用する。

アンケート調査票（案）の一例

No	質問内容	回答形式	選択方法	選択肢(数字 2 桁)
4-18	もう一泊できた場合、 If you could stay one more night, ① どの地域を訪れたいですか？ which area would you like to visit?	ラジオ ボタン	1 っだけ	01. この地域で過ごす / Spend time in this region 02. 別の地域へ移動する / Move to another region
	② 「別の地域」と答えた方は、具体的にどの地域ですか？ If you answered "another region," which region specifically?	ラジオ ボタン	1 っだけ	01.大阪-キタ/Osaka-Kita 02.大阪-ベイ/Osaka-Bay 03.大阪-ミナミ/Osaka-Minami 04.大阪-泉州/Osaka-Sensyu 05.京都-京都市内/Kyoto-Kyoto City 06.京都-丹後/Kyoto-Tango(Northern Kyoto Pref.) 07.京都-南丹/Kyoto-Nantan (Central Kyoto Pref.) 08.京都-宇治/Kyoto-Uji(Southern Kyoto Pref.) 09.兵庫-阪神/Hyogo-Kobe,Hanshin 10.兵庫-姫路・播但/Hyogo-Himeji,Bantan 11.兵庫-淡路島/Hyogo-Awaji Island 12.奈良-奈良市内/Nara-Nara City 13.奈良-斑鳩/Nara-Ikaruga 14.奈良-吉野・明日香/Nara-Yoshino,Asuka 15.滋賀-湖北/Shiga-Kohoku 16.滋賀-大津/Shiga-Otsu 17.滋賀-湖東/Shiga-Koto,Hikone 18.和歌山-白浜・串本/Wakayama-Shirahama,Kushimoto 19.和歌山-高野山/Wakayama-Koyasan 20.和歌山-熊野/Wakayama-Kumano 21.関西以外/Outside of the Kansai region
4-19	もう一泊しなかった理由を教えてください。 /Please let us know the reason why you did not stay for an extra night.	チェック ボックス	複数 選択可	01.行きたいと思う場所が他になかった/There was no other place I wanted to go. 02.行きたいと思う場所が遠くて諦めた/The place I wanted to go was too far away, so I gave up. 03.時間が無かった/There was not enough time for the trip. 04.旅行予算が足りなかった/The budget for the trip was not enough.

関西・大阪におけるDXの活用について

- ◆ **夢洲コンストラクション**：「データ標準化・可視化システム」は、各建設会社の持つ車両管理データを一元管理、ダッシュボードに表示して、ワンストップで把握可能(図4-2-3)。システム導入による稼働時間の削減効果を目指す
- ◆ **交通MaaSアプリ(KANSAI Maas)の開発と展開**：交通情報から決済、予約へ

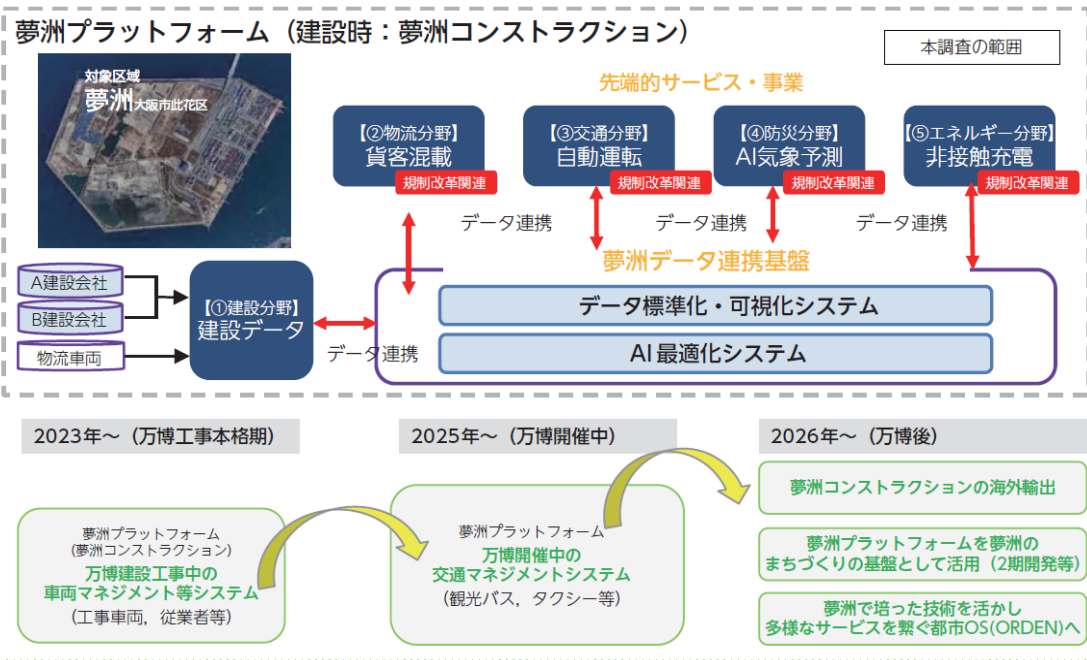


図4-2-3 夢洲コンストラクションのシステム構成とロードマップ

出所) スーパーシティ・スマートシティフォーラム2022 講演会資料 「夢洲コンストラクション」から始まる関西の夢洲まちづくりへの取り組み」P21



出所：関西 MaaS 協議会HP「KANSAI Maas アプリのリリースについて」

関西の新たな強みとなるビジネス発掘の考え方

- ◆ 関西の課題解決型の事業や業種と、DXビジネスの考え方を掛け合わせることで、既存の産業分類にこだわらない「**関西の新たな強みとなるビジネス(儲かるビジネス)**」を検討
- ◆ ビジネス環境は変化が常であり、変化のスピードはますます加速しているため、「**掛け合わせ**」による**新たなビジネスの発掘を継続的に**行っていくことが必要



図 6-2-1

関西の新たな強みとなるビジネス発掘の考え方

出所) 筆者作成

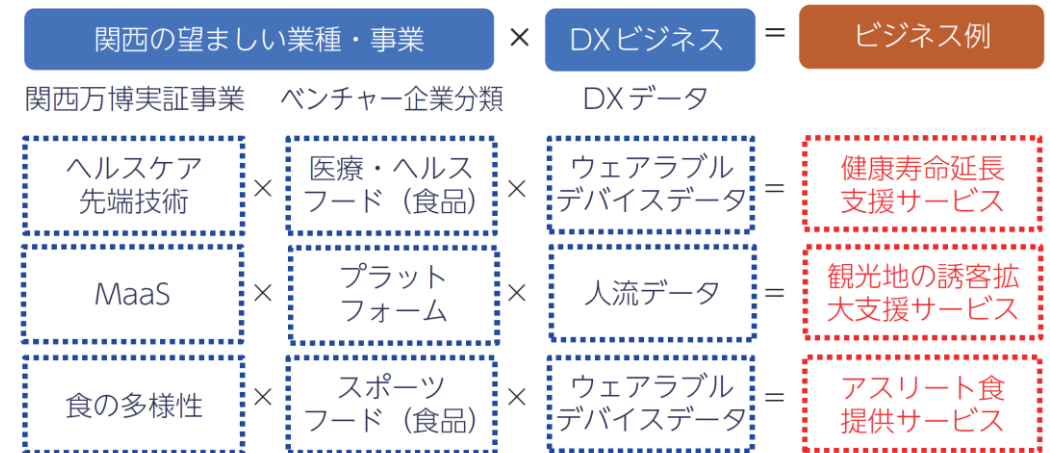


図 6-2-2

新たなビジネスの発掘事例

出所) 筆者作成

人材の確保について：関西労働市場の現状と課題

- ◆ 関西における各産業の年齢構成をみれば、
- ◆ **15～34歳の若年層が占める割合が下位3位である産業はその他サービス業、建設業と運輸業・郵便業**
- ◆ **65歳以上の高齢層が占める割合が上位3位である産業は、その他サービス業、生活関連サービス業・娯楽業と建設業**
- ◆ **建設業**では高齢化と若年層が不足。将来、生活機能を維持するサービスと公共投資に大幅な供給制約が起こることを示唆
- ◆ **DXの活用やICT化の促進による生産性の向上が不可欠、人材育成コンソーシアムも重要**

表4-1-5

各産業における就業者の年齢構成（2023年第1四半期，関西）

	15～34歳	35～64歳	65歳以上
建設業	15.9	66.7	17.4
製造業	27.3	64.2	8.6
情報通信業	35.7	60.7	3.6
運輸業・郵便業	17.2	72.4	10.3
卸売業・小売業	26.2	62.2	11.6
学術研究・専門・技術サービス業	22.9	62.9	14.3
宿泊業・飲食サービス業	43.1	44.8	12.1
生活関連サービス業・娯楽業	30.3	48.5	21.2
教育・学習支援業	31.0	58.6	10.3
医療・福祉	23.1	65.3	11.6
その他サービス業	13.7	63.0	23.3

注) 単位は%である。
出所) 総務省統計局「労働力調査」

ご清聴、ありがとうございました